

きのこ

県オリジナルきのこ品種を活用する

— きのこ産地へ新アイテムの提供、地域へ新商品と新事業の提案 —

研究の目的

- ❑ きのこ品種の栽培技術開発
多収量で高品質となる栽培条件の解明
産地実証による生産技術の実用化
- ❑ 品種特性の維持
健全で安定した品質の種菌を配布する技術の確立
凍結保管等による長期保存技術の確立

研究方法

- ❑ 開発品種と品種候補の栽培技術確立



センター開発
エノキタケ品種「黄雲」

品種特性

全体が黄色く、傘が大きい

改善点：柄の色、日持ち



ナメコ品種候補

品種特性

傘が大きく、柄が太い

改善点：栽培期間短縮



ヒラタケ品種候補

品種特性

多収量、栽培期間が短い

目標：生産拡大

- ❑ 品種特性の維持
健全種菌の配布

病原菌感染チェック手法確立

種菌生産工程管理基準の策定
(美味しまね認証対応)

長期保存技術

凍結保管の有効性確認

↓
解凍条件の検討



—80℃フリーザー

研究の現場移転

- ❑ きのこ品種を提供して生産拡大と多品目生産による経営の安定化を進める。
- ❑ 地域特産品開発、有利販売を支援する。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : きのこ・特用林産科

研究担当者 : 富川 康之

問い合わせ先 : 0854-76-3815

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : 県開発きのこ品種の原種菌維持・管理 (研究期間 : H30~R4)



早生樹

短伐期施業に有利な樹種を選択し
育苗技術や効率的な伐出システムを確立する

～コウヨウザンとセンダン以外の早生樹導入による新たな林業経営モデルを提案する～

研究の背景・目的

既往の研究対象であるコウヨウザンとセンダン以外に、短伐期施業による林業経営が見込める樹種を選択し、育苗技術や効率的な伐出方法を検討する。また、伐採後に資源量を早期に回復させるための施業方法を検討する。

研究方法

①早生樹候補の育苗技術開発と母樹育成

県内で造林実績が少ない早生樹（短伐期樹種）候補を選抜して、育苗条件を検討する。また、これらの成育特性を確認するために植栽試験を行い、将来的には母樹林に育成する。

②効率的な伐出システムの検討と資源量早期回復技術の確立

伐採・搬出作業の最適化と、萌芽更新による資源量回復を最大にするために伐採時期、受光伐や施肥の効果を検討する。また、搬出条件と用途開発に資するため、原木のチップ化を検討して作業工程を確立する。

研究の内容

①早生樹候補の育苗技術開発と母樹育成

1) 育苗技術の確立

実生法：種子保存試験、発芽率調査
挿し木法：発根率調査、鉢上げ試験

2) 植栽試験、母樹林造成

活着率調査、成育条件解明

早生樹(短伐期樹種)候補

イチヨウ、ヒノキアスナロ(アオモリヒバ)、ユリノキ、オニグルミ、トチノキ、ハリギリ、キハダ、コシアブラ、サカキ、ヒサカキ、クロモジ、ミツマタなど



早生樹(広葉樹)実生



早生樹(針葉樹)の挿し木

早生樹(広葉樹)
※ユリノキ

②効率的な伐出システムの検討と資源量早期回復技術の確立

1) 伐出方法の検討

生産性調査、チップ化技術確立



早生樹(広葉樹)の萌芽



チップャーシュレッダー

2) 資源量回復技術

萌芽再生促進条件の解明

研究成果の活用・今後の研究計画

様々な早生樹を対象とした「育苗」と「生産」の手引きを作成し、森林所有者に情報提供する。
造林樹種の選択肢を拡大して森林経営の安定化を図る。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : きのこ・特用林産科

研究担当者 : 口脇信人・富川康之

問い合わせ先 : 0854-76-3815

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : コウヨウザン・センダン等の早生樹の導入による新たな林業経営モデルの開発 (研究期間: H30~R4)